

# 震災レポート

この度の地震により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

震災以来2ヶ月の間に埼玉と宮城県を4回往復して、皆様には色々のご心配をお掛けしましたが、やっと落ち着いてきました。この震災について次男の陽之介がレポートを書きましたので皆さんに読んでいただきたく掲載をお願いしました。よろしくお願いします。

平成23年5月17日 田川裕則

## 高校1年 田川陽之介

### はじめに

春休みに宮城県多賀城市の遺跡に行こうと思っていましたが、3月11日に起きた東日本大震災の影響で遺跡に行くことができなくなったので、復旧作業も含め多賀城市にある祖父母の家に行ったときの被害状況、その状況を見て感じたことを伝えたいと思いました。

多賀城市の祖父母の家の近くには実際に炎上した新日本石油精製があり非常に危険な状況でした。

### ・祖父母の家を見て

家の中は津波の影響でとても住める状況ではありませんでした。

全ての畳が外れる、家のドアが外れる、冷蔵庫が倒れる、タンスが倒れる、家の外の倉庫が倒れる、車が流される、堤防が決壊している、自動販売機が流されるなど、このほかにも地震の影響がわかる状況が多くありました。

ニュースでは見ることはできなかった現地の状況を生で見ることによって今回の地震の被害の大きさ、地震が及ぼす影響を心に深く刻む事ができました。次の写真は実際に撮影した現地の状況の一部です。



家前の決壊した堤防





### ・実際に被災地で生活してみて

自分は、震災後高速道路が開通して、ストーブや食料、着替え等を持って現地に行ったのでそれほど困ることはなかったのですが、自分が一番気になったことは風呂に入れなかったことでした。これは被災者の人たちも感じていたのではないかと思います。食べ物が少ない。寒い。などといったことは我慢できると思いますが、今まで毎日当たり前のように入っていたお風呂に入れなかったことは、清潔さが保てなくなりとてもストレスが溜まると思いました。実際に水道、電気、ガスがない生活を送って、ニュースでしかわからなかった被災者の皆さんの気持ちを理解できたと思います。

自分が住んでいる埼玉県とは環境が全く異なり、ほとんどの人が現地の厳しい状況を詳しく知らず、気持ちは被災地の事を考えてはいるが実は震災前とあまり変わらない生活を送っているのでは無いでしょうか？

自分も現地に行くまでは今まで通り何も変わらない生活を送っていましたが、市民ホールに行って避難生活の様子を見たり、家の片付けをしたり、被災者の皆さんとほぼ同じ生活を送ったことにより、意識が変わり埼玉に戻って来てからは節電・節水・無駄づかいをしないなどを意識して生活を送るようになりました。

### ・今回の東日本大震災を受けて

今回の地震で感じたことは、阪神淡路大震災から10年以上経っていて気が緩んだのか地震に対する意識、対策が薄れていたのだと思います。地震を警戒して、避難用のバッグや水を用意しておけば、数日間は停電や空腹などはしのげたと思いました。

避難の仕方だって、学校や家族で話し合っていれば、避難の方法に自動車を利用する人も減ったのでは無いかと思います。

そんな中でも親戚、知人の生存状況を確認するための用途としてTwitter、mixi、Facebookなどは電話やメールが繋がらない状況で非常に便利で有効的だったのでは無いでしょうか？自分の親戚もこれらを利用して生存状況の確認、情報交換をしていました。

まずは地震が起きたら机などの物の下に身を隠すや、ドアを開けるなど初歩的なことから見直すことで万が一地震が発生した時の被害縮小に繋がると思いました。

これからは、次に来る可能性のある大地震に対応できるように家族だけでなく隣近所の方で避難場所、避難経路、連絡方法を確認し地震が起きたときに一つでも多くの命を救えるようにしていきたいと思っています。